

G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

アダムスキー没後、半世紀以上が経過しても、なお、スペースピープルの存在が、国連や政府などから報道されることはありません。しかし、地球上の大国上層部、あるいは有力な人々にとっては、知られた存在であると考えています。

アダムスキーが伝えたように、彼らは、何度も各国にアプローチし、地球が宇宙世界の一員となるよう様々な情報を提供し、時には、具体的な支援も行っています。

それは、愛に満ちたものでありますが、一方では、極めて厳格であり、原子爆弾の製造や維持に関しては、絶対反対の立場を貫いているようです。このところが、大きく対立する部分であり、地球では、既得権等を主張する大きな勢力が優位となっているようです。

この辺のことは、本会のホームページ「宇宙に想う」2013年12月で掲載している内容が、事実に近いと理解しています。

いずれにせよ、彼らを拒んでいるのは、地球の方であり、その多くの事実も隠さざるを得ないという、真実に悖る誠に情けない世界であると理解する必要があります。

そのため、進化論をはじめ地球の歴史、宇宙物理学、天文学、生物学、医学、宗教、社会システムなど、多くの分野で真理から離れているようです。

しかし、これがいつまでも続くとすれば、地球上の多くの人々にとって、何ら宇宙の真理を知ることなく、人生を終える人ばかりとなるでしょう。これは、決して長くは続かないのです。それが、スペースプログラムなのだとして理解しています。その最終局面に近づきつつあるのですが、その間、今日がそうであるように、世界的な苦難が相次いで起こるものと想像されます。

そして、その苦難の先には、地球の新たな方向性が示されるものと思われまます。

その新生地球では、小学生から「生命の科学」を学ぶようになるのではないかと考えるものです。これらは、単なる期待というのではなく、そうならなければいけないものと思います。その時、役立てる存在となれるよう、日々、準備をしておきたいものです。

“言葉に注目”

<生命の目的は個人的に物事に上達することではなく…>

by G・アダムスキー著『UFO・人間・宇宙』（中央アート出版社）

これは、本書の第15章「個人の分析と想念のコントロール」に書かれているもので、表記に続いて、「・・・宇宙的な意味であらゆる行為を統合することにあります」となっています。そして、「各人は人間としての想念を高めるために自分独自の方法を発見しなければなりません」。さらに、「各人は生涯において遂行すべき運命をになっています」と書いています。

これらを総合すると、「人間が生きているのは、個人的な技術の熟練ということではなく、創造主の目的遂行にある。そのためには、人間界に存在する様々な出来事の意義を理解すること。そして各自は、意識を高めるために生まれ持った役割に気づき、その遂行に適した方法を見つける必要がある」というところでしょうか。なかなか意味深いものがあります。

「生命の科学」学習のポイントPart 8 1

今回は、レクチャー8 『宇宙の一体性』の4回目、「意識のささやきを聴くこと」です。

冒頭で、前項で書いた「地球を天国の状態にする。」には、「この講座を読むだけではだめで、これを生かすことが必要です。」と諭しています。そして、創造された目的を果たそうとするのなら、「意識を“父。”と認めて、もとの“父。”のもとへ帰らねばなりません。」とハッキリと書いています。加えて、自分の心、つまりエゴにいつまでも役立てないとして、それでは天国は実現できないと書いています。

そして人間は、誰もが意識を持っていて、その意識が、よき生活を教えてくれていると伝え、この内部の小さな声に支配権を与えるように言っています。これが出来れば、「人間は知ることになる。」としています。

スペースピープルは、このような生き方をしてきたけれども、私たちは、創造主へ通じることのない道をたくさん作ってきた。このような中、彼らが、「意識。」と言うカギを与えてくれたことに感謝して良いと語っています。

次に、例えとして、高い塔の頂上に立つと東や西にそれぞれ物が見えますが、「同様に心が“意識的な知覚。”に興味を持てば・・・」意識の中の物を見たと説明しています。これは冒険かも知れないとして、心が知りたいと短気になると、せっかく意識とつながってもうまくいかないと言っています。ここでまた、心は学ばなければならないということです。

地球人の場合、存在が知られていない“意識。”と接し、少なからず対話をし、良き結果を得たとしてもそのことに気づいていません。ここでは、そのことを知らせたうえで、心が忍耐力をもって意識に従えば、心は、意識との混和状態になることができると伝えています。

宇宙に“生きる”

<名言格言編81>

“ 焼きが回る ”

頭の働きが衰えて鈍くなったり、技術の分野で腕が鈍ったりする例えです。刃物を作るとき、金属を鍛えるのに火が回りすぎて、かえって切れ味が悪くなることから言われるようになったようです。年を重ねることで、このように言われたいようにしたいものです。



Q：“悟。”れば、それで完結なのか？ ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：“悟る。”は、奥義を知るという意味で、仏教的には迷いを去って真理を知るという意味です。これは、完成の姿ではなく、本来の人として、正しい基礎に乗っていることを意味していると思います。そこから、真の人としてのスタートで、本当の役割と学びがあるのです。

書物紹介

『魂でもいから、そばにいて』3・11後の霊体験を聞く 奥野 修司 著 (株)新潮社

これは、ノンフィクション作家の奥野氏が、東日本大震災により被災され、肉親を亡くされた方々に取材を行って書物にしたものです。本書は、春・夏・秋の項目に分かれ、5～6人ずつ16人からの取材でなっています。津波で、子供や兄弟、両親などを亡くされた方々は、様々なトラウマや後悔と戦っていますが、そんな中、亡くなった兄からメールが届いたとか、子供の声や足音が聞こえるなど、様々な不思議な体験が綴られています。これらをどう捉えるか？

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆東京開催☆ 2020年5月6日(水・祝)開催を中止いたします。7月25日(土)、9月21日(月・祝)、11月23日(月・祝)は、台東区民会館で行います。時間は、すべて午後1時30分。会場代一人500円。当日、資料を配布します。

【編集後記】

これから、スペースピープルが公然と現れるとして、どの程度の人が準備ができていますでしょうか？ かなり、心もとない状況です。

URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第81号>

発行日 令和2年 5月10日

編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1

発行責任 渡邊 克明 (禁無断転載)

G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

人は、誰でも幸せを求めています。これは、世界中で共通していることだと思われれます。少なくとも中進国と言われる程度の国家、戦乱のない国家なら、個人の幸せや家族の幸せくらいは、世界に闇があったとしても達成できます。それは、個人の想いと努力で可能だと考えます。

しかし、その個人の幸せを集合したところで、世界平和にはならないでしょう。もちろん、個人の幸せの達成者が、100%にならないからではなくもっと根本的な理由からです。

それは、宇宙の本質に照らした幸せではなく、極めて個人的な幸せが多いということなのです。真理につながる事柄は、常に誰によっても否定し得ないものを基礎に考えを組み立てなくてはなりません。結局、このようなものが存在することが前提で、考える必要があります。

そうした絶対者に照らして、それに沿った考えや行為が、世界平和につながるということです。このようなものが、人類の発生以前から宇宙には存在していたと考えられるのです。

もし、そうしたものが存在しないのなら、同じ体型の人間同士が、自己の自由で、何をしていても良いことになりませんが、それでは、地域も国もバラバラで存在できません。そこで、“法”が律しているわけですが、今日を見るように、これでは、世界は平和にならないということです。

人々をまとめ上げる統一感とは、絶対者が内包していると考えべきで、過去ばかりか未来も、そして、そこへの道筋さえも含んでいます。

それが、“宇宙の意識”であり、地球ばかりか、宇宙全人類の指針となるべき存在です。この欠落こそが、地球人を永遠の不幸にしているのです。これを伝えたのが、アダムスキーであり、オーソンです。オーソンは、「地球人の苦悩を光の前の暗黒のように消すために“宇宙の創造主”を地球人の道しるべにしよう」と語っています。

これを受け入れるかどうかは、地球人の側にあります。そして、これを理解し受け入れられる人は、既に、“悟っている”ということになるのです。

“言葉に注目”

<生命と宇宙に関する地球人の理解力は実に貧弱なものです>

by G・アダムスキー著『第2惑星からの地球訪問者』（中央アート出版社）

これは、本書第5章における金星母船内の指導者の言葉です。これにより、他の世界や宇宙の構成についても多くの誤った考え方をもっていると語ります。そして、「それどころか人間自身についてもほとんど知識はないのです！」と諭しています。

この言葉は、既に70年近く経ちましたが、今なお真実であると思います。私たちは、人間自身について、その目的、従うべき指針など、基本的なことさえ知らないのです。

この話の後、より大きな理解をまじめに求めようとする欲求が各地で増大していると語り、「地球人が現在歩んでいる道をすでに通ってしまった私たちは、喜んで援助の手を差し伸べて・・・私たちの知識を伝えようとしているのです。」とありがたい言葉を述べています。

「生命の科学」学習のポイントPart82

今回は、レクチャー8 『宇宙の一体性』の5回目、「疑惑や恐怖を起こさぬこと」です。

ここでは、人間の従来からの生活から、起こしてしまいそうな精神的な反応について注意を喚起しています。

冒頭で、「完全な啓示がこないうちに意識が洩らそうとしている事柄について疑惑を起こしてはなりません。」と記します。そして、「また何物をも恐れてはいけません。恐怖は人生のレッスンの連続を中止せしめることになるのです。」と重要な事を伝えています。

人間は、恐怖を起こすことによって、その人が学ぶべきレッスンの中止につながると言っているのです。アダムスキーは、人は今まで、誤った教えに従い、理解できないものを恐れやすく、不快なものを排除しやすいと言っています。

しかし、あらゆる現象は調和していること、それで宇宙は完全であることが理解できれば、恐怖心は解消され美しい情景が展開することになるとしています。

さらに、短気である場合や、心からくる干渉に気づく場合は、子供をしつけるような調子で心を訓練するように言っています。ただちにそのようにしないと、はめ絵パズルから、その部分が抜け落ち混乱が生じるということです。

そして、「以上の部分を読者はしっかりと把握する必要があります。」と書いています。それは、探究が益々深淵になること、そして、過去世が見えた場合、自分にとって好ましくないものも真実として学ぶ必要があるからです。

これらのことは、真実の探求者に求められています。なかなか容易な部分ではなく、訓練には時間を要するでしょう。この時、忍耐は大変重要な資質となります。

宇宙に“生きる”

<名言格言編82>

“健康は富に優る”

どんなに富んでいても体が弱くては、楽しい幸福な生活を送ることはできない。健康が一番大切だという教えです。健康なときは、より多くの富を求めるもので、富より健康の方が財産だと思えないものです。この時期、再確認したい言葉です。



Q：スペース・プログラムは活きている？ ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：これは、他の惑星から地球へ人々を移送して以来続いているもので、多少うまく行かないからといって中止されることはありません。彼らは、今日まで、様々な支援をしていますが、地球人を目覚めさせることが最大の使命です。しかし、準備のできている人は少ないようです。

書物紹介

『第二の地球が見つかる日』 渡部 潤一 著 朝日新聞出版

これは、天文指導でも知られる国立天文台教授・副台長の渡部さんの1年前の著書です。近年、大型の望遠鏡を中心に太陽系以外の惑星の発見が増えています。これらは発見の手法が考案されたからで、小型望遠鏡でも見つけられる方法もあります。本書では、ハピタブル・ゾーン（太陽から適切な距離）にある地球型惑星が間もなく発見されるとしています。宇宙には、地球人より進んだ知的生命が沢山いると著者は語り、天文学の現状がわかる書物です。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆東京開催☆ 2020年7月25日（土）中止します。9月5日（土）、11月23日（月・祝）、2021年1月30日（土）は、台東区民会館で行います。時間は、すべて午後1時30分。会場代一人500円。当日、資料を配布します。 ※開催の最新情報は、HPでご確認ください。

【編集後記】

アダムスキーの栄光は、理解ない人に傷つけられ、理解者は減少しているようで残念です。しかし、真実は遠からず輝きます！

URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第82号>

発行日 令和2年 7月10日

編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1

発行責任 渡邊 克明 （禁無断転載）

G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

古くからのアダムスキー支持者の多くは、彼が亡くなって半世紀以上が過ぎても、その伝えた事柄を立証する事例がほとんどないことに落胆しています。

アダムスキーが伝えた事柄を大きく分けると、1「近隣惑星等の状況」、2「生命の科学による生き方」、3「宇宙船の原理」であると思います。

しかし最近、これを傍証する発見等が報告されています。

例えば、1については、火星の地下に大量の水が存在する可能性があること、月のクレーターに氷が発見されたこと、木星の衛星エウロパの大気中に水蒸気が存在することなど、従来の天文学や宇宙物理学では説明できない事例も含めて発見されています。

また、アダムスキーとオーソンの会見前後の写真を、コンピューター高解像度解析をしたところ、写真にオーソンと円盤が写っていることが判明した。加えて、本年7月2日の隕石を捉えた映像に、宇宙船等と思われる物体が写っていることなど、小さいながらも検証すれば真偽のわかる事柄が含まれています。

2については、NHKの「人体」の特集のように、分子生物学や医学などの進展によって、人体内細胞間のコミュニケーションなどが立証されています。また、「生命の暗号」の著者、村上和雄筑波大学名誉教授は、最近、「心の在り方で遺伝子の働きが違ってくる。」と言っています。

3については、オーソンの足型の文様やネガに描かれた文字様の真偽ですが、これは、バシル・バン・デン・バーグが成功して以来、一般的には誰も解読に成功していないようです。しかし、バーグは、アダムスキーが認めた成功者であることは紛れもない事実です。

この2と3については、誰よりも自己検証できるものです。そうすれば、成功しないまでも真偽については分かるはず。実際には、表に出ないだけでアダムスキーを証明する事例は沢山あります。私たちは、少ない事例からでも、アダムスキーが真実の人であったと理解する洞察力と、それをエネルギーに前向きに進む行動力が必要なのではないでしょうか。

「言葉に注目」

<数名の科学者がその旅行でアダムスキー氏と行動をともにした…>

by G・アダムスキー著『UFOの真相』（中央アート出版社）

これは、キース・フリットクロフト（ベルギーGAP主宰）が講演において語ったことです。表題の「その旅行」というのは、アダムスキーがスペースピープルの母船で宇宙を飛んだことを意味しています。アダムスキーは、土星旅行の前に功名な科学者が宇宙船を目撃しているなど伝えていますが、何時かは不明なるも一緒に乗船した科学者等がいるようなのです。

そこで、フリットクロフト氏は、「地球の周囲をひそかに飛んだ・・・、小グループがアメリカにありましたし、ほかの国々にもそうした人々はいたのです」。こういう人々を政府関係筋や航空宇宙関係の会社は、喉から手が出るほど望んでいたと語り、アダムスキーはその最大の人だと言っています。

「生命の科学」学習のポイントPart83

今回は、レクチャー8 『宇宙の一体性』の6回目、「真の神秘は存在しない」です。

アダムスキーは、「心には限界があるけれども、意識にはそれがない」と書いています。探検をしようとしているのは心であると伝え、「これはエゴまたは個性であり、人間の第二の部分、すなわち意識の“結果”です。」と教えています。

ここで、“意識”と“心”の違いを明確にしています。心は学ぶ側のものであり、個性であり、意識という原因から生じた結果であると言っています。既に読んできたように、エゴが問題なのだとは理解できましたが、それは不必要なものではなく、必要なものであり大切な個性なのです。しかし、人間は、正しい働きを知らないで、好き勝手にしているということなのです。

続いて、「意識は、・・・“真のあなた”なのであり、それは“宇宙的な人間”の可能性と似姿とを有しています。」と書いてあります。

“意識が真のあなたである”、この解釈がなかなか理解できないのです。普通にあなたという人と、意識と心を買いた両方となります。しかし、“真”がつくと、原因側になるあなた、つまり、意識であるということになります。これは、究極的には、同様なものでありますが、現実界では、分離したようになっていて理解が難しいのです。そこに軸足を置いて行動すると、“宇宙的な人間”になれるということなのです。そうすると、「あなたの宇宙的な半身は、あなたを案内して宇宙という家の中で旅をさせ・・・」という意味も分かるでしょう。

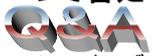
最後に、「あらゆる信仰や宗教はもといわゆるオカルトまたは超自然現象に基づいていました。」と書いています。この超自然現象は“意識”であるから神秘は存在しないと言っているのです。人間の心の理解力が足りないことから、神秘が生み出されたということなのです。

宇宙に“生きる”

<名言格言編83>

“頂門の一針(ちょうもんのいっしん)”

あまり聞きなれない言葉ですが、これは、頭のとっぺんに針を打つように、相手の急所を押えた痛切な戒めという意味です。人からの批判などで、確かに当方が悪い場合、この言葉を使って善処していくなど、実際にも使われているものです。



Q：なぜ、予言ができる？ ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：確かに、これは不思議です。預言は、神が告げる言葉として別ですが、予言が当たるのは、そのような事件等が起こる前に通常は気づかれない予兆を感じられるからだと思われます。しかし、感じた時点と、時が進むと起きなくなることもあるようで、ここは難しいところです。

書物紹介

『宗教と生命』 池上彰・佐藤優・松岡正剛・安藤泰至・山川宏 角川書店

本書は、2018年3月21日に有楽町朝日ホールで行われた、連続シンポジウムの第3回の講演録を加筆修正したものです。私たちは、テクノロジーを使っているのか、使われているのか？ 第4次産業革命と言われるほど、AI技術に関する話題が絶えない一方で、合成生物学の急速な進展による生命操作の話題も盛んとなり、科学技術万能論が再び沸騰しています。こうした状況がある中、各分野の専門家が参考となる持論を展開しているものです。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆東京開催☆ 2020年9月5日(土)中止します。11月23日(月・祝)、2021年1月30日(土)は、台東区民会館で行います。時間は、すべて午後1時30分。会場代一人500円。当日、資料を配布します。 ※ 開催の最新情報は、HPでご確認ください。

【編集後記】

アダムスキーの「生命の科学」を初め、哲学等が真実であるのは論を待ちません。最近、彼の真実を肌で感じるようになりました。

URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第83号>

発行日 令和2年 9月10日

編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1

発行責任 渡邊克明 (禁無断転載)

G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

仮に、地球人と友好的なスペースピープルとの交流が行われるとすれば、どのような事が期待されるでしょうか？

おそらく、次のことを知るようになるのではないのでしょうか。

1 宇宙の真相、2 人間の真の生き方、3 惑星間飛行物体の原理

これらの真相は、現在の地球的理解では受け入れ難いところもあり、段階的に知らされるものもあるでしょう。しかし、隠されていた、あるいは知ることができなかった宇宙的な事実を知ると、これに合わせて、人の“転生”についても理解が進むものと思われれます。

先の事柄を学び進めるうちに、自分の過去世を感じ、思い出す人々が出てくるでしょう。

さらに、“転生”が事実であることを伝えるために、他の惑星に転生したかつての身内の方々が協力して、以前の家族に会いに来るというプロジェクトも行われるかもしれません。また、こちらからの先進地視察も可能でしょう。これは、想像するだけでも期待感が高まります。

それでも理解できない人々もいるでしょうが、徐々に転生に対する理解が深まるでしょう。これは、人々が、日々に生きるべきかを知らせることになり、意義ある生を生きようとする人々が増えることでしょう。

一方、人の死に伴う葬儀という儀式を初め、宗教についての考え方を考えざるを得なくなるでしょう。このようなことは、様々な分野で起こるでしょう。その時、従来の教えや考え方にしがみついている人々は、時代が変わっても、その人にとっては何も変わらないことになるでしょう。

こうしたことが、問題とならないように、教育など学問分野をはじめ、経済システムを含めて徐々に改善していく必要が起こるでしょう。

このような変化に対応できる精神は、「生命の科学」を理解し実践しようとする人々、あるいは、同様の考え方を持てる人々に通ずるものです。そうした人々が、ある程度いなければ、望むべくもないのですが、地球が、そのような時代を迎えることを切に願うものです。

“言葉に注目”

<潜在意識の心の状態と機能については広く誤った考えが行われている>

G・アダムスキー著『21世紀の宇宙哲学』（中央アート出版社）

これは、「顕在意識と潜在意識」について書かれたものの一文です。アダムスキーは、潜在意識についての知識の欠乏が、多くの人々を意味のない秘教（オカルト）に熱中させると言っています。顕在意識は、極めて弱く気まぐれで、不安や恐怖などやってくる感情の変化を受けやすい。しかし、それでいて、潜在意識の心を信じているということです。

この潜在意識の心は、“宇宙の英知”と意識において一体であるとしています。「それは、人間の肉体のなかの“魂の心”であり、肉体を建設して支えているものである。」ということです。

「感覚器官の心（顕在意識の心）は陰であり、“魂の心”（潜在意識の心）は陽であって、この二つは一体である。」と説明しています。

「生命の科学」学習のポイントPart84

今回は、レクチャー8 『宇宙の一体性』の7回目、「神秘思想やオカルトに近づかないこと」です。

初めに、「あなたはこれまでに神秘思想や秘学（訳注＝占星学、降霊術その他）を探求してきたかもしれませんが、そうした種類の源泉から流される情報類に近づいてはいけません。」とハッキリと書いています。

というのは、これらは“分裂”を有しているからだと言っています。分裂というのは、これらは“物質的”なものと“霊的”なものとを扱っていて、この両者が「恐怖」と「理解力」の不足によって、大きく分離されているからということなのです。

ここでは、細かい説明がない分けですが、言いたいのは、物質的な面と霊的な面が混同されていること、そして、その関係性（原因と結果など）について、何の整理もされないまま話されていることです。こうしたことで、この両者は、まったく別のものであるかのように、まったくおかしな説明がなされている場合があるということでしょう。

そこで、次のように言っているのだと思われます。「一方、われわれは“真理”を扱っています。あらゆる結果には原因があるにちがいないのです。」と。

そして、「ひとたびあなたが自分の心を意識という子宮のなかにまで広げるならば、神秘的な分野に属するものとしてかつてあなたが読んだり聞いたりしたことのある物事の何かを見ることになるでしょう。」と書いています。

つまり、自分のエゴを訓練して、意識と混和できるのならば、今まで魅力的に見えていた神秘という分野の事象が、実際には、何であったかを理解できるようになると言っています。これは、自分のレッスンをうまく学んでいるなら分かるというわけです。

宇宙に“生きる”

<名言格言編84>

“春眠暁を覚えず（しゅんみんあかつきをおぼえず）”

春の夜は、暑くもなく寒くもなく寝心地がいいので、夜が明けたのも気づかないほど熟睡してしまい、なかなか目が覚めないということです。確かに、春は心地よいものです。しかし、夏も冬も、そのように快適な部屋なら、やはり目が覚めないのかもしれませんが。



Q：進歩するのは、心、魂、肉体それとも意識？ ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：これは、どれも該当しそうです。魂は意識から誕生し、肉体をもって細胞を進歩させ、これにより心も成長します。こうなると魂が成長し、意識もその分進歩するのだと思います。しかし、実際には、心が頑固のため、心を教育できず、なかなか進歩が望めない状況なのです。

書物紹介

『ティマイオス クリティアス』 プラトン 著 白澤社

本書は、古代ギリシャの哲学者プラトンによるものです。ティマイオスもクリティアスも人の名前で、前半のティマイオスは完結していますが、後半のクリティアスは未完となっています。前半では、宇宙創造など興味深い話が展開し、その一部でクリティアスが、7賢人の中でも最も賢いソロンが、ギリシャの神官から聞いたとする話を語ります。それが、アトランティスについての話です。クリティアスでも、これが語られます。なかなか興味深い書物です。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆東京開催☆ 2020年11月23日（月・祝）中止します。2021年1月30日（土）、5月1日（土）は、台東区民会館で行います。時間は、すべて午後1時30分。会場代一人500円。当日、資料を配布します。 ※ 開催の最新情報は、HPでご確認ください。

【編集後記】

コロナ禍により、仕事の在り方や生活様式などが変わりつつあります。これを機に、人々の意識も少しずつ変わってきているようです。

URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第84号>

発行日 令和2年 11月10日

編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1

発行責任 渡邊克明（禁無断転載）

G・アダムスキー通信

<発行の趣旨> 真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に1996年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。



冒頭語

アダムスキーによれば、生命の90%は宇宙の意識の直接指導に従うということです。これは、そのまま人体についても言えることです。人体の細胞の90%は宇宙的細胞で、言わば、その意志に従って自動的に活動し、残り10%は人間の心に関係する細胞と解釈できます。

しかし、地球人は、宇宙的意志である宇宙の意識ではなく、エゴである心を中心に生きていることから、この10%の細胞に支配されているということになります。

人体の90%にもなる宇宙的細胞を10%が支配している証拠は、一例として、精神面や肉体面における病気の発生があります。

心は、人体の成長とともに発達し、人体の動かし方や他者との関係などを学びながらエゴを確立していきます。これに従えば、新生児のエゴはゼロに近いのではないかと思います。何の心配も悩みもなく、少なくとも明日のことを思い煩うこともないでしょう。

しかし、心が発達してくると、恐怖をはじめ不安や嫉妬などを知り、感情の成長とともに肉体の10%は、そうした心に影響を受けて成長する細胞となっていくようです。そのような細胞が原因となって、心身の不調和を起し病気の発生となるのでしょうか。

一方、心身をゆったりとさせ、軸足を宇宙の意識に置こうとする人は、細胞を活性化させ、宇宙的な細胞が90%を超えて、人体も若返っていくでしょう。このどちらを選ぶか、それは正に「あなた次第」なのですが、このような変化は、単にこれだけではないと考えられます。

人体の細胞は、連綿と続いて来た肉体の特性を遺伝子に残すだけではなく、転生により引き継いできた魂の記憶はもちろんのこと、人類が経験してきた様々な体験なども受け取っているようです。更に凄いことに、細胞は、全宇宙の細胞と交信ができるということです。

この知恵袋である人体細胞から、いかに情報を引き出すかは、その個人を初め人類の将来を大きく左右することになるでしょう。いずれ人類が、人体細部の10%という狭量な「生」から、残り90%に軸足を置く「生」へ転換するならば、地上に天国が実現するに違いありません。

「言葉に注目」

<天国というのは生命の真実の知識のことです>

G・アダムスキー著『UFO・人間・宇宙』（中央アート出版社）

表題の後、「これが『生命の科学』講座を設けた理由です。」と書いています。そして、「それは研究者を向上させて指導者とし、他人を助けるのを可能ならしめることにあります。」と書いています。

これを説明すると、「天国という言葉の意味は、「生命」とは何かという深い知識や洞察力により理解される。これは生命に対する真実の知識であり、創造主を知ることにつながって、その住み家である天国について理解させる。」ことになります。

「生命の科学」は、生命の真の理解を通して心と体、そして意識とを一体化させるものです。そして、その指導者の育成についても期待しているということです。

「生命の科学」学習のポイントPart85

今回は、レクチャー8 『宇宙の一体性』の8回目、「神秘現象の真相はこれだ」です。

前段で、肉体や脳の中の細胞は、今までなすべき仕事が多かったと書いています。それらは、利用されるのを待って冬眠していたというのです。そして、「あなたの宇宙的真自我にたいして心に関心を持つならば、それは細胞に行動すべき好機を与えるのです。」としています。

これは、心が自己の内部の意識に関心を持つなら、肉体内部の細胞が動き出すということです。こうなると、頭の中にある奇妙な振動を感じるようになるのと知らせています。これは怠惰な細胞が動き出したということで、いずれその振動も感じなくなると言っています。

こう説明するのは、何か具合のよくないことが起こったと考えないようにするためだということです。この脈動現象を色々説明する人々がいるけれども、それらは正しくなく、「実際には心の構成分子がより大きな関心の分野のなかで拡大したために起こるのです。」と書いています。また、未知なるものを探ろうと刺激物を用いることもあるが、これも一時的であり良くないということです。

続いて、「論理的に考える人ならだれでも、各人の正当な継承物であるその知識の源泉へ直接に入ることの有利さに気づくはずだ。」と書いています。

つまり、知識の源泉は、「宇宙の意識」にあるわけですから、そこへ直接アクセスする方がよいということです。この「悟り」に早く到達することの重要性を、スペースピープルが示してくれたと言っています。「ただ一つの意識があるのであって・・・、この意識がさまざまな目的を求めてさまざまな程度に現象化しながら各肉体を通じて宇宙のメロディーを完成するので。」と美しい表現で結んでいます。

宇宙に“生きる”

<名言格言編85>

“ 備え有れば患い無し（そなえあればうれいなし） ”

ふだんからいざという時のために準備をしていれば、万一のことが起きてもあわてふためかないということです。この言葉は、大雨、地震、防風などの災害の多い今日、様々なことを想定して、事前に対応していく必要性を言っているように感じます。



Q：最近、UFO番組が多いようですが？ ※ここでは、よくある質問等をQ&Aとして書いたものです。

A：確かに、このところ特集を含めいくつか全国ネットで放映されています。これは、米国海軍が撮影したUFOについて、4月に「ペンタゴンが公認した」と関係していると思われる。日本の自衛隊の動きも関係していますので、このことにも留意が必要です。

書物紹介

『論語と算盤（そろばん）』 渋沢 栄一 著 株式会社 筑摩書房

本書は、本人が書いたものではなく、講演において語ったものを口述筆記したものです。明治維新の後、世界では西洋列強が幅を利かせ、これから日本はどうしていくのかという時代。当時、卑しいものと見られていた商売の重要性を感じ、その立場を高めるとともに、資本主義の盲点である利益至上主義を抑制するため「論語」を軸に発展させたという話です。約480社もの大企業を創立し、自らは利益を追求しないという優れた人物の経営哲学です。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆東京開催☆ 2021年1月30日（土）開催を中止します。5月1日（土）は、台東区民会館で行う予定です。時間は、すべて午後1時30分。会場代一人500円。当日、資料を配布します。 ※ 開催の最新情報は、HPでご確認ください。

【編集後記】

令和3年を迎えました。しかし、時が経つのは速いですね。何もしなくとも、何か奉仕しても時は同じく進みます。それなら・・・。

URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/>

G・アダムスキー通信 <第85号>

発行日 令和3年 1月10日

編集発行 国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1

発行責任 渡邊 克明 （禁無断転載）